県内総合

建設情報 Iwate

胆沢の２施設を集約し整備

胆沢カントリーエレベーター ヤンマーグリーン施工

ふるさと JA岩手

岩手ふるさと農業協同組合（ＪＡ岩手ふるさと、奥州市胆沢、後藤元夫経営管理委員会長）は、奥州市胆沢小山字峠地内に胆沢カントリーエレベーターの建設を計画。来年３月の完成を目指し、設計・施工をヤンマーグリーンシステムの担当で進めている。胆沢地区内２カ所のカントリーエレベーターを、施設の老朽化や現状の営農の状況などから１カ所に集約する。

カントリーエレベーターは、米や小麦、大麦、大豆などを乾燥、貯蔵、調製、出荷までを一環して行う施設。生産者の共同利用施設となる。カントリーエレベーターでは、刈り取られた籾を大型乾燥機で乾燥し、乾燥した籾をサイロに貯蔵。籾を籾摺り機で玄米にして出荷する手順で処理される。

ＪＡ岩手ふるさとでは、胆沢地区で小山カントリーエレベーターと南都田カントリーエレベーターを管理し、水稲を処理している。両施設は、1970、71年に整備されたもので老朽化が認められる。

現在の２施設が整備された時代と比較し、コンバインでの稲の刈り取りが主流となった。現在のニーズに対応するものにするため新施設の整備を計画した。

整備が進む胆沢カントリーエレベーター

新たなカントリーエレベーターは、小山カントリーエレベーターの立地していた場所に、整備する。施設は、鉄骨造で約1500平方㍍の床面積となっている。

貯蔵能力は3200㌧を予定。２施設を合わせたものより貯蔵能力は少し下がるが、処理する能力は格段に向上するとしている。

現在、ヤンマーグリーンシステムの担当で施工が進む。工期は24年３月までの予定で、実際に使い始めるのは来秋の稲刈り後からになる見通しだ。

なお、小山カントリーエレベーターは既に解体。南都田カントリーエレベーターについては、今後解体する予定でいる。

ニュースのお知らせは
〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

機能強化で処理施設の設備改修や統合

＝奥州市・23年度の農集排＝

奥州市の今年度の農業集落排水事業は、処理施設や管渠施設の機能強化に向けた施工や調査を進めている。処理施設については４地区が対象で設備関係の改修が内容、管渠施設は４地区を２地区に統合するための施工が内容となっている。

処理施設の機能強化を実施するのは、江刺の二子町、胆沢の供養塚、前沢の赤生津と前沢北部の各地区。処理施設ポンプの機械設備や電気設備などの改修を計画している。二子町と赤生津は施工中、供養塚と前沢北部は工事発注を今後見込んでいる。

二子町と赤生津の各地区は、今年度で機能強化を完了。供養塚と前沢北部の各地区は、来年度も施工を実施したいとしている。加えて、衣川の富田川西地区では、来年度から機能強化の施工に入りたい考えで、今年度は調査を進めている。

管渠施設の機能強化を計画するのは、江刺の川西・倉沢、衣川の六道寺向・富田川西地区。川西地区の処理施設を廃止して倉沢地区に、六道寺向地区の処理施設を廃止して富田川西地区に、それぞれ統合する。施工としては、ポンプの設置や管布設などとなっており、いずれも施工中としている。

各地区の概要を見ると、二子町地区は、計画人口1840人、計画戸数310戸、処理水量497.0立方㍍（日平均）。供養塚地区は、計画人口1960人、計画戸数377戸、処理水量529.9立方㍍（日平均）となっている。

赤生津地区は、計画人口1480人、計画戸数316戸、処理水量399.6立方㍍。前沢北部地区は、計画人口2460人、計画戸数574戸、処理水量891.0立方㍍（日平均）の規模となる。

川西地区は計画人口1080人、計画戸数230戸、処理水量280.8立方㍍（日平均）、倉沢地区は計画人口2240人、計画戸数495戸、処理水量604.8立方㍍（日平均）。六道寺向地区は計画人口660人、計画戸数147戸、処理水量178.2立方㍍、富田川西地区は計画人口800人、計画戸数160戸、処理水量216.0立方㍍（日平均）となっている。

購読のお申し込みは
本社販売局へ
TEL(019)623-8201
FAX(019)623-8204

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

砂防施設を活用したインフラツーリズムの活性化に向けて

～全国の歴史的砂防施設を拠点に活動を行っている住民団体への調査結果～

岩手大学名誉教授（前岩手大学農学部森林科学科砂防学研究室教授）　井良沢　道也

１．はじめに

近年、社会資本施設に対する見学など、インフラツーリズムへの関心が高まっています。その中でも砂防施設は地域から土砂災害を防ぐための施設としての役割を期待されています。とりわけ建設から50年以上経過した歴史的砂防施設は、現役の防災施設として地域を土砂災害から守りながら、地域の歴史や災害との付き合い方を現在に伝える文化財として、また、観光資源として地域の活性化のために活用されています。今後、砂防インフラツーリズムの活性化に向けて期待も高まっていますが、こうした中で、歴史的砂防施設を拠点に活動を行っている住民団体の重要性が指摘されていますが、その実態は明らかではありません。

そこで、全国の歴史的砂防施設を拠点に活動を行っている住民団体を対象に、アンケート調査を行いました。対象とした住民団体は、平成30年（2018年）10月に開催された「石積み砂防シンポジウム」（牛伏川階段工100周年記念行事）に参加した団体としました。調査方法は、各住民団体の代表にアンケート用紙を送付し、返信をしていただく方式で実施しました。この結果、８団体からの回答を得ました。

２.アンケート調査から見た住民団体の活動状況について

住民団体へのアンケート調査結果に基づき、歴史的砂防施設の活用の現状と課題を下記に示す六つの観点から整理しました。

①活動対象として砂防施設の状況

活動対象は、建設から50年以上経過したということもあり、主に石積の砂防施設が対象となっており、砂防施設は登録有形文化財に登録されています。

②住民団体の組織構成と活動状況

住民団体の設立経緯は様々であり、文化財登録や土木学会選奨土木遺産への選定をきっかけに団体が設立された団体や、地域における公民館活動の一環として設立されたケースや、地域の生活基盤である棚田を保全する目的で設立された団体もあります。住民団体に所属する人数や年齢構成については、９人から68人となっており、全体的に50歳代以上の人が大部分を占めています。住民団体の活動については、学習会や見学会、比較的大規模なイベントの開催のほか、除草・清掃等の砂防施設周辺の整備を行っています。毎年定期的に活動している内容も見られました。維持管理については、各団体とも様々な取り組みを実施しており、砂防施設周辺の除草・清掃の他に、大雨等で損傷した石積の重機を使用した補修を行っている団体もあります。このような活動の中で、砂防施設を訪れる一般市民（観光客）は、多い所で3000人近くに上っている所もあります。活動費用（予算）については、県・市町村からの補助のほか、助成金等を活用して行われています。

③施設を管理する行政機関との関係

住民団体が活動の対象としている砂防施設は、基本的に国や県が管理する公共施設であるため、ほとんどの住民団体が活動にあたり日常から行政機関と連携し、情報共有を行っています。連携内容として、砂防施設及び周辺の損傷状況等の把握や、イベントの協働開催、維持管理作業の協力・支援など、比較的幅広く行われています。行政機関への要望については、活動内容の広報と資金援助があります。

④防災教育への活用

砂防施設の小中学校への防災教育への利用については、８団体中６団体で実施されていました。現地を訪れる小中学生、教員に対し、住民団体会員による案内や説明、ボランティア作業への参加などが実施されています。

⑤地域住民との関係

活動を通じて地域住民の意見や反応については、地域が元気になる、活動によって安全になる、景観が良くなる、地域外の人との交流が進むなど、肯定的な意見が多かったです。一方で、高齢化の進行による人員の確保が難しくなってきていること、維持管理の対象施設が多くなってきていること、地域内でも活動に対する考え方に温度差があること等、課題も確認されました。

薬師沢石張り水路工（長野県小川村）を除草する薬師沢砂防惣代の会と地元の中学生達

⑥今後の組織運営、課題・提案

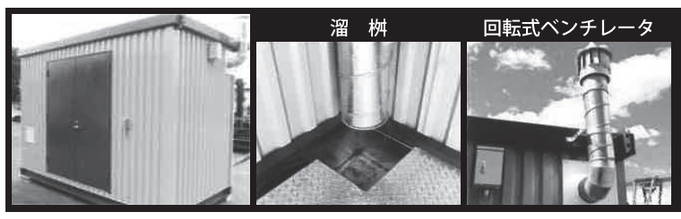
今後、歴史的砂防施設を利用して活性化を図っていく上で必要なこととして、地域や砂防施設を知るための勉強会・見学会の開催や、防災教育の場としての活用、歴史的砂防施設を利用したイベントの開催等、歴史的砂防施設を知ってもらう取り組みが課題として挙がりました。また、今後の取り組みとして、周辺の公共施設との連携や多くの人を巻き込む活動の展開、広域的・継続的なイベントの開催、大学との共同研究・調査の実施、地域の基盤としての整備等を想定しています。住民団体の持つ課題として過半数を超える団体が「後継者不足」を挙げており、若い世代の参加や維持管理の継続的な実施、地域の問題として捉えていくべきとの意見も見られました。

３．まとめ

歴史的砂防施設を活動対象とした住民団体は、施設を管理する行政機関と連携し、砂防施設の保存や維持管理活動を通じて、地域の活性化に取り組んでいます。住民団体関係者の高齢化・後継者不足という課題の中で、積極的に砂防施設の説明・紹介や広報・PR活動を実施しており、地域を知る歴史教育や防災教育に大きく貢献していることがわかりました。また、住民団体の活動やイベントの開催を通じて、除草・清掃・施設の点検等の砂防施設の維持管理活動が、施設の維持＝防災力の向上につながっています。一方で、団体の後継者不足などの課題なども明らかとなりました。今後は全国の歴史的砂防施設間の情報共有のネットワークを構築することにより、地域に合った利活用方法を導入し、歴史的砂防施設の保存と砂防インフラツーリズムの活性化などにつなげていく必要があります。

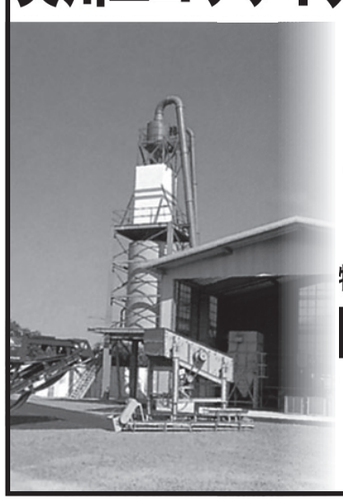
謝辞　本研究については、アンケート調査に協力をいただきました住民団体の皆様に感謝申し上げます。またとりまとめに際して岩手大学農学部砂防学研究室の学生達に協力をいただきました。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。



設置・移設が簡単！
災害にも強い安心設計!!
販売・レンタル可能
少量危険物保管庫
プロテクトハウス
販売・レンタルのお問い合わせは　TEL.019-614-0341
㈱備品レンタルセンター
http://www.bihin-rc.co.jp ★ info@bihin-rc.co.jp

―― 地域と共に歩み続ける　遠忠グループ ――
総合建設業
株式会社 遠忠
八幡平市大更24-8-1-5
TEL 0195－76－2126
FAX 0195－75－0680
URL：www.enchu.com
ISO9001:2008認証企業
《供給する製品、プロセスまたはサービス》
建築物の設計、工事監理及び施工
土木構造物の施工（"7.3設計・開発を除く"）
【営業品目】
土木工事一式
建築工事一式
舗装工事
解体工事業
砂利採取販売
山砕石製造販売
硅石・硅砂製造販売
生コン製造販売
各種自動車整備
宅地建物取引業
産業廃棄物収集運搬業
一般貨物自動車運送業
遠忠石油株式会社
八幡平市大更24-8-1
TEL 0195－75－1343
FAX 0195－75－1624
各種燃料油の販売・配達
配達地区：八幡平市　岩手町
盛岡市　滝沢市
自動車用品等の販売
バイオディーゼルの精製
産業廃棄物中間処理業
タダテックス有限会社
八幡平市大更24-9-1
TEL 0195－70－1611
FAX 0195－70－0680
タダテックスリサイクルセンター
八幡平市田頭1-10-1
TEL・FAX 0195－75－2356
【取扱品目】
・アスファルト廃材　・コンクリート廃材
・コンクリートくず
・木くず（解体材・建設廃材・生木・伐根材）

解体工事から
一般・産業廃棄物処理まで
お気軽にお問い合せ下さい
受入品目
●がれき（アスファルト、コンクリートがら）
●木くず（解体木材、伐採材、剪定材）
●廃プラスチック類
●廃石膏ボード
●その他（ガラス陶磁器屑、金属屑、繊維屑、紙屑）
奥州エコリサイクルセンター TEL・FAX:0197-32-2111［岩手県奥州市江刺田原字横懸248-9］


特定建設業
EC南部コーポレーション㈱
本社／〒023-0003 奥州市水沢佐倉河字慶徳71
TEL0197-22-2255・FAX0197-24-2555
http://www.ecnanbu.jp　E-mail info@ecnanbu.jp